

科目名(英文名)	ナンバリング	単位数	年次	期間	担当者
知的財産技術経営特論(基礎)【MR】/知的財産技術経営特論【MR】 (Advanced Study of Intellectual Property Technology Management)	MPCD07	2	1年次	前期	矢作 嘉章(ヤハagi ヨシアキ)

授業のねらい概要	<p>この講義の目的は、前期と後期を通じて、企業の現場を再現するケースメソッド(実例演習)を行いながら下記の二点を達成することです。</p> <p>1?モノづくりやコトづくり(サービス提供)の現場で「事業戦略、技術戦略、知財戦略」がどのように作られて、「知的財産ならびに知的財産権がどのように活用されていくか」を理解すること</p> <p>2?関係する事業戦略、知財戦略の立案方法などの技法をグループ討議を通じて習得できるようにすること(この場合、実務上の知識、技法を講義の時間内で理解して習得できるように進めます。)</p> <p>とくに前期の基礎では、「事業・技術の企画立案、国内契約・国際契約などの知財活用」の基礎を念頭に置きますが、企業、事務所の業務遂行に必要な実践力が身につくように、講義を進めます。</p>
----------	---

回数	テーマ	授業の内容・教育方法	予習/復習
第1回	ケーススタディの進め方	以下 上段 内容(「論点」) 下段 方法	「セフルエクササイズ」による予習/復習を実施(講義終了時に課題を提示 4時間)
第2回	繊維産業 自動織機	特許制度とは何か? ケーススタディ後に討議	第1ステージ モノゴトのとらえ方 「気になること」 (講義終了時に課題を提示 4時間)
第3回	情報ネットワークビジネス スマートフォン	価値、付加価値とは何か? ケーススタディ後に討議	第1ステージ 問題、問題点の発見の 方法 (講義終了時に課題を提示 4時間)
第4回	自動車産業 ハイブリッド車	戦略とは何か? ケーススタディ後に討議	第1ステージ 課題設定の方法 1 (講義終了時に課題を提示 4時間)
第5回	【総合エクササイズ】 第1回から第4回までの振り返り	知的財産技術経営とは? グループ討議後に課題を整理	第1ステージ 課題設定の方法 2 (講義終了時に課題を提示 4時間)
第6回	ホームエレクトロニクス事業 VHS・ベータ ビデオレコーダ	技術力、事業力とは何か? ケーススタディ後に討議	第2ステージ 戦略の設定方法 1 (講義終了時に課題を提示 4時間)
第7回	エレクトロニクス産業 コピー機	先行技術調査して権利化するとは? ケーススタディ後に討議	第2ステージ 戦略の設定方法 2 (講義終了時に課題を提示 4時間)
第8回	自動車産業 燃料電池	知的財産権とは何か? ケーススタディ後に討議	第3ステージ 自分の価値を高める ために 1 (講義終了時に課題を提示 4時間)
第9回	自動車産業 車載ネットワーク	ライセンスとは何か? ケーススタディ後に討議	第3ステージ 自分の価値を高める ために 2 (講義終了時に課題を提示 4時間)
第10回	【総合エクササイズ】 第6回から第9回までの振り返り	強い特許とは? 価値増加には? グループ討議後に課題を整理	第3ステージ 自分の価値を高める ために 3 (講義終了時に課題を提示 4時間)
第11回	【総合エクササイズ】 第6回から第9回までの振り返り	強い特許とは? 価値増加には? グループ討議後に課題を整理	第3ステージ 自分の価値を高める ために 4 (講義終了時に課題を提示 4時間)
第12回	医薬品産業 診断薬用酵素	秘匿とは何か? ケーススタディ後に討議	第4ステージ 5人の敵への備え (講義終了時に課題を提示 4時間)
第13回	半導体事業 半導体回路設計	発明とは何か?(職務発明) ケーススタディ後に討議	第5ステージ 新たな一歩へ 1 (講義終了時に課題を提示 4時間)
第14回	【総合エクササイズ】 第12回、第13回の振り返り	具体的な課題設定と問題解決	第5ステージ 新たな一歩へ 2 (講義終了時に課題を提示 4時間)
第15回	【総合エクササイズ】 基礎理論、用語、手法の整理と 15回全体への振り返り	具体的な課題設定と問題解決 グループ討議により	第5ステージ 新たな一歩へ 3 (講義終了時に課題を提示 4時間)

到達目標	<p>戦略立案、知財活用などの「実践力を身につけること」を達成目標にします。</p> <p>セルフエクササイズの実施 身につけることを確実にするために、講義参加者自身の身の周りの事例についてエクササイズします。</p> <p>総合エクササイズの実施 グループ討議と結果のプレゼンテーションを通じて、実務を意識した総合エクササイズを行います。</p>
評価方法	エクササイズ、討議、プレゼンテーションなどを通して評価します。(必要に応じて出席状況も考慮します)
成績評価基準	<p>評価基準は「実際に身につけたかどうか」です。</p> <p>A 到達目標項目について とくに優れた成績で達成している (90%以上)</p> <p>B 到達目標項目について 優れた成績で達成している (80%?89%)</p> <p>C 到達目標項目について 概ね妥当な成績で達成している (70%?79%)</p> <p>D 到達目標項目について 合格に必要な最低限度を満たして達成している(60%?69%)</p> <p>F 到達目標項目について 上記以外 合格に必要な最低限度(「ミニマム・リクワメント」)は、「エクササイズ、討議、プレゼンテーションなどを積極的に実行できる姿勢及び能力」と定義します。</p>

教科書			参考書		
書名	著者名	出版社名	書名	著者名	出版社名
			MOT「技術経営」入門	延岡健太郎	日本経済新聞社
			技術マネジメント入門 日経文庫	三澤一文	日本経済新聞社
			Contemporary Strategy Analysis 7th Edition	Robert M. Grant	Wiley
			民法でみる知的財産法 第二版	金井高志	日本評論社
			知的財産戦略 技術で事業を強くする	丸島儀一	ダイヤモンド社

教科書			参考書		
書名	著者名	出版社名	書名	著者名	出版社名
			ため		
受講心得	<p>本科目はメディア授業対応です。</p> <p>講義は将来のために自らの力を研鑽する場であり、エクササイズ、討議、プレゼンテーションなどを通して実学が自らの力として新たに習得されていくと考えます。</p> <p>【フィードバック】参加メンバには、議論を通じてそれまでの知識や認識と当日の議論の結果とのギャップを埋めることができるように、課題の理解を促します。この過程で能力が高まると考えるからです。</p> <p>【フォローアップ期間の扱い】 上記の開催には学生が主体的に学修するフォローアップ期間を含みます。</p>				
オフィスアワー	講義中および講義の前後において質疑を受けつけてお答えします。				